

証券会社における営業店システムの現状と今後の課題

～ 日興証券の事例 ～

平 沢 政 人
株式会社 日興システムセンター

日興証券は、63年3月に第三次オンラインシステムの一環として、営業店システムを移動させた。そのシステムの狙い、概要を解説し、証券会社における今後のシステム化の課題を述べる。

現状を要約すれば、営業店システムの移動によって第三次オンラインシステムの効果は、業務系・情報系ともに大きくでてきており、経営からの評価も非常に高くなってきている。しかしながら証券界を取巻く環境の変化は激しく、バックログは増加の一途であり、変化を前提としたシステムの再構築が必要となってきている。

CURRENT SALES OFFICE TRANSACTION SYSTEM AND ITS FUTURE PROBLEM

TO BE SOLVED IN SECURITY COMPANY

—— NIKKO SECURITY'S CASE ——

Masato HIRASAWA
The Nikko System Center Ltd.
2-11-12 Nishi-gotanda, Shinagawa-ku, Tokyo 141

Nikko Security inaugurated "SALES OFFICE TRANSACTION SYSTEM" service, as a part of the third on-line information system's implementation March 1988.

This is to note future systematization-problems which confronts security company, while describing the outlines and the final target of the systems.

To sum up the current status, this new system service produced the intended effects which has become highly valued from our managerial standpoint.

However, changes in business environment which surrounds our security business has become so severe and data backlog accumulation has become so pressing that information system reconstruction is to be required to cope with further changes.

1. 日興証券のシステム化の歴史

S29 (UNIVAC 60)	<ul style="list-style-type: none">・テレタイプ回線による注文・約定メッセージ交換・代金計算、報告書作成 (バッチ)
S46.3 第1次オンライン (IBM-360 モデル50)	<ul style="list-style-type: none">・顧客登録・売買・募集・証券管理・預り金管理・報告書等の受信
S53.2 第2次オンライン (IBM-370 モデル168)	<ul style="list-style-type: none">・顧客勘定の一元管理、代金計算のリアル化・中期国債ファンドスタート・日興カード発行開始
S58.4 投資情報オンライン (FACOM-M382)	<ul style="list-style-type: none">・客先への端末設置・情報サービスの提供
S59.4 第3次オンライン (IBM-3081K)	<ul style="list-style-type: none">・セールス端末 (SDP) の導入・ATM (硬貨付) の導入・漢字入出力端末の導入 (ディスプレイ、プリンター)・セールスへの情報サービス <ul style="list-style-type: none">・ホーム・トレード・ワン (HTO) / 在宅取引開始・証券スウィング (銀行普通預金と中期国債ファンドとの振替)・海外店からの注文処理システム・東証株式システム売買・新顧客管理システム・債券先物取引 (東証) ・海外投資情報システム ・共用カード・HTO自動送受金 ・人事総合システム
S61.7 (名古屋センター竣工) N-NET稼働	<ul style="list-style-type: none">・日興バーラモデル日本版 / IT営業・NTT上場・インデックス・ファンドスタート・株式先物50 (大証)・日興ミリオンスタート・証券共同ATMサービス開始
S63.3 新営業店システム稼働 (IBM-3090 400E.180)	<ul style="list-style-type: none">・超長期国債先物 (東証)・株価指数先物 (東証 大証)・インサイダー取引チェック

2. 新営業店システム

(1). 背景/目的

①. ユーザー側

- 顧客サービスの向上要求
 - ・清算処理の待ち時間の増加
- 業務量の拡大に対する対応要望
 - ・端末機増設が限界
- 事務スペースの不足
 - ・事務員の増大
 - ・マーク伝票主体
(セールスが伝票記入し、事務員が作成・入力)
- 動線の短縮要望
 - ・各事務係が自席と端末機の間を往復
- 端末の老朽化/機能不足
- 商品の増大 → 業務量拡大 → 事務員の残業時間増加

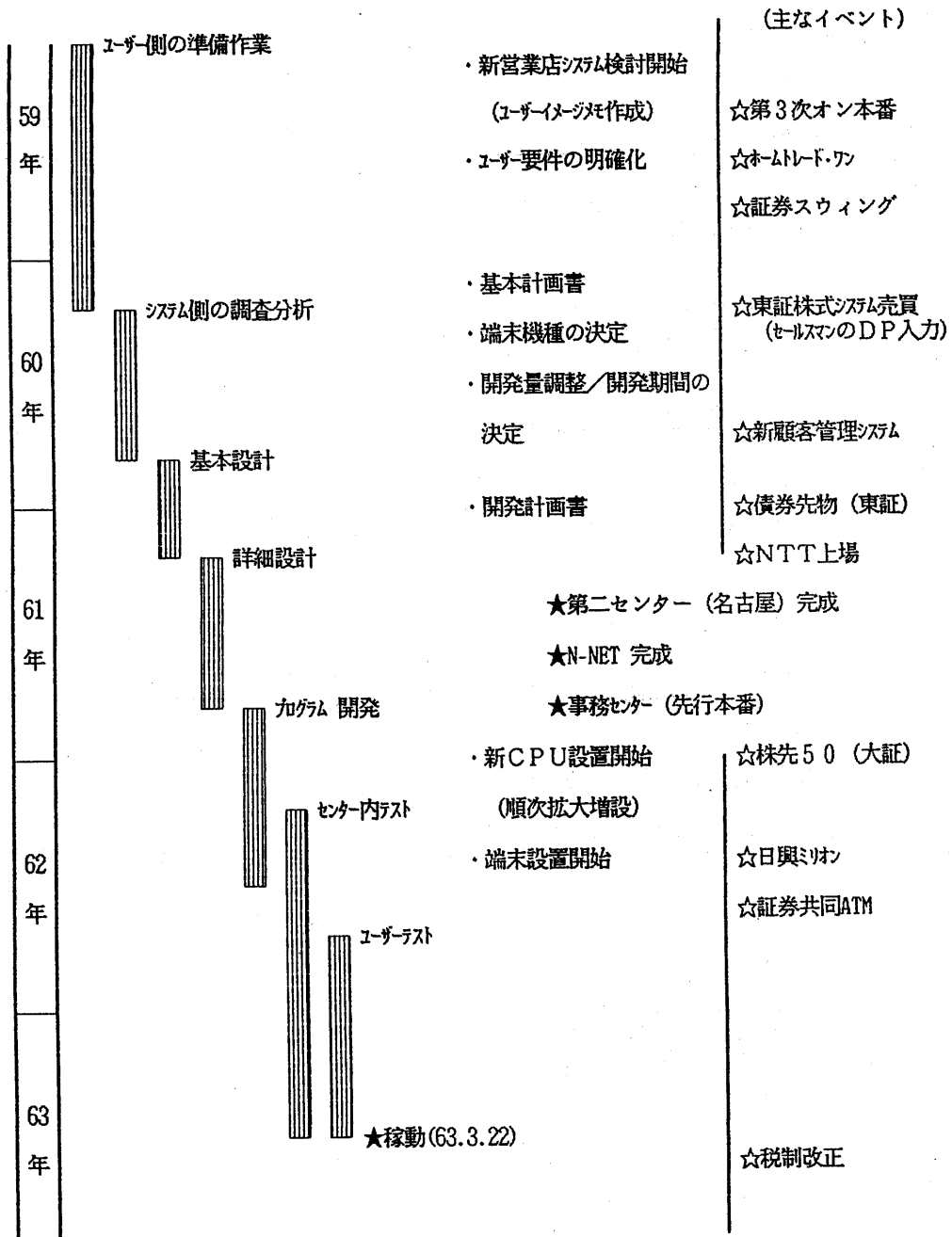
②. システム側

- 処理能力の向上 (1 CPUによるオンライン処理の限界)
- 障害対策の充実 (金融機関におけるシステム障害の報道)
- 保守の容易性
- 運用の簡素化 (2次オンライン・3次オンラインの統合)
- 通信コストの削減 (日興統合ネットワーク = 'N-NET')
 - ・データ通信, 音声, FAXを1つの回線 (DDX/専用回線) で接続

③. 経営側

- 事務コストの削減
- 競争の激化 (同業・他業界)
 - ・前提として事務量/事務員を減らす (事務員の増加を抑制)
 - ・減らない事務については他へシフトさせる

(2) スケジュール



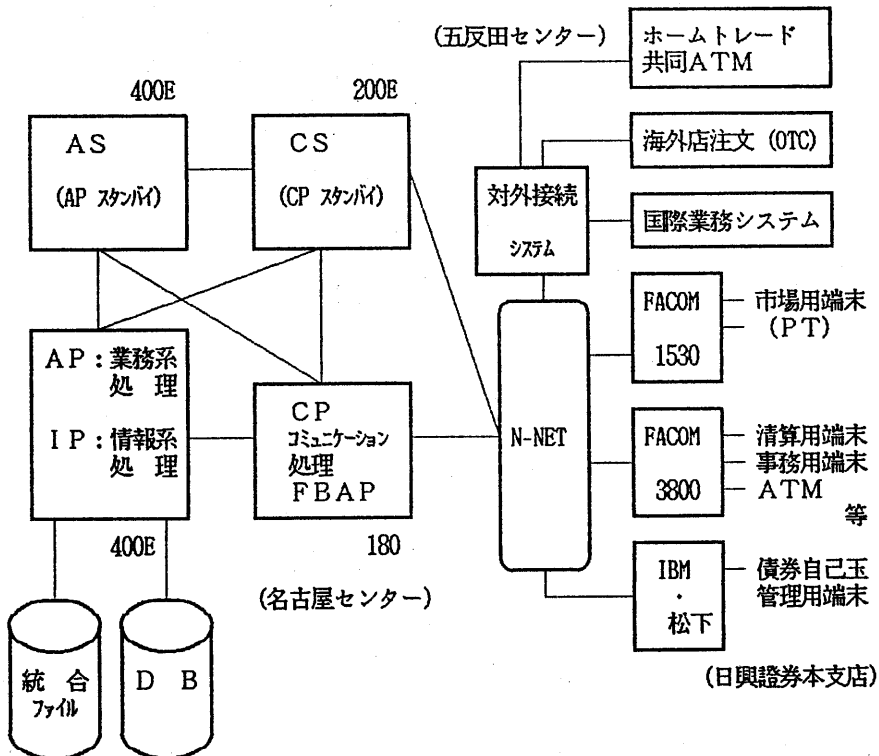
(3). 新営業店システムの概要

①. センター・システム構成

- 2次系, 3次系システムの二重構造の統合
- オンライン運用時間の弾力化 (業務系と情報系の分離運用)
- リモートメンテナンス (RMS) 機能の採用
- CPU, 回線, 主要ファイル, 端末の二重化
- センター障害時のオンライン運用
- 2センター (東京, 名古屋)

センター・システム構成図

- <特徴>
- ・ 4台の超大型ホストによる大規模システム
 - ・ 完全ホットスタンバイ方式による障害対策
 - ・ 顧客統合ファイル (CIF) を中心とした統合事務処理
 - ・ IMS/DBを使用した効果的な情報処理

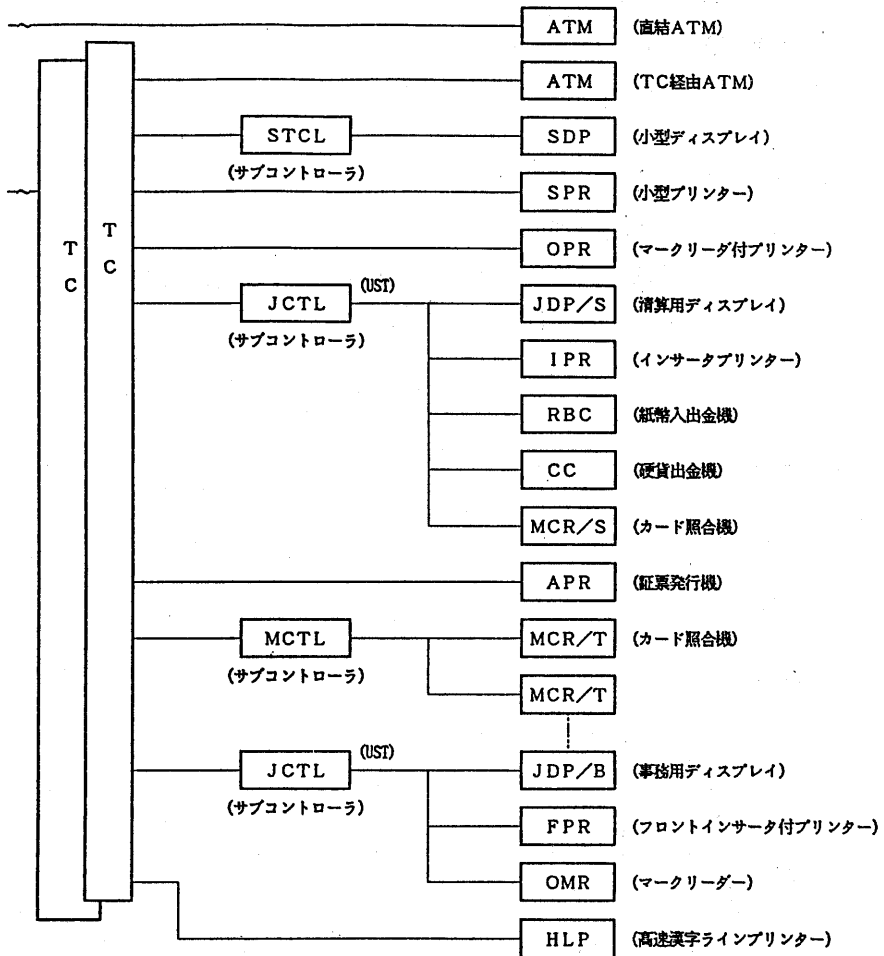


(注) CP---コミュニケーション・プロセッサ
 AP---事務処理プロセッサ
 IP---情報処理プロセッサ
 CS---コミュニケーション・プロセッサ・スタンバイ
 AS---事務処理プロセッサ・スタンバイ
 FBAP---障害用フォールバック (注文, 清算処理)

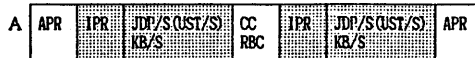
②. 端末構成

- 業務に適した端末機の導入
- 設置条件に合わせて選択できる端末機の採用
- カラーディスプレイの採用 (事務端末として)

営業店端末構成図



*店舗種類やフロアの状況から、次の組合せができる



必須端末

A = B + C



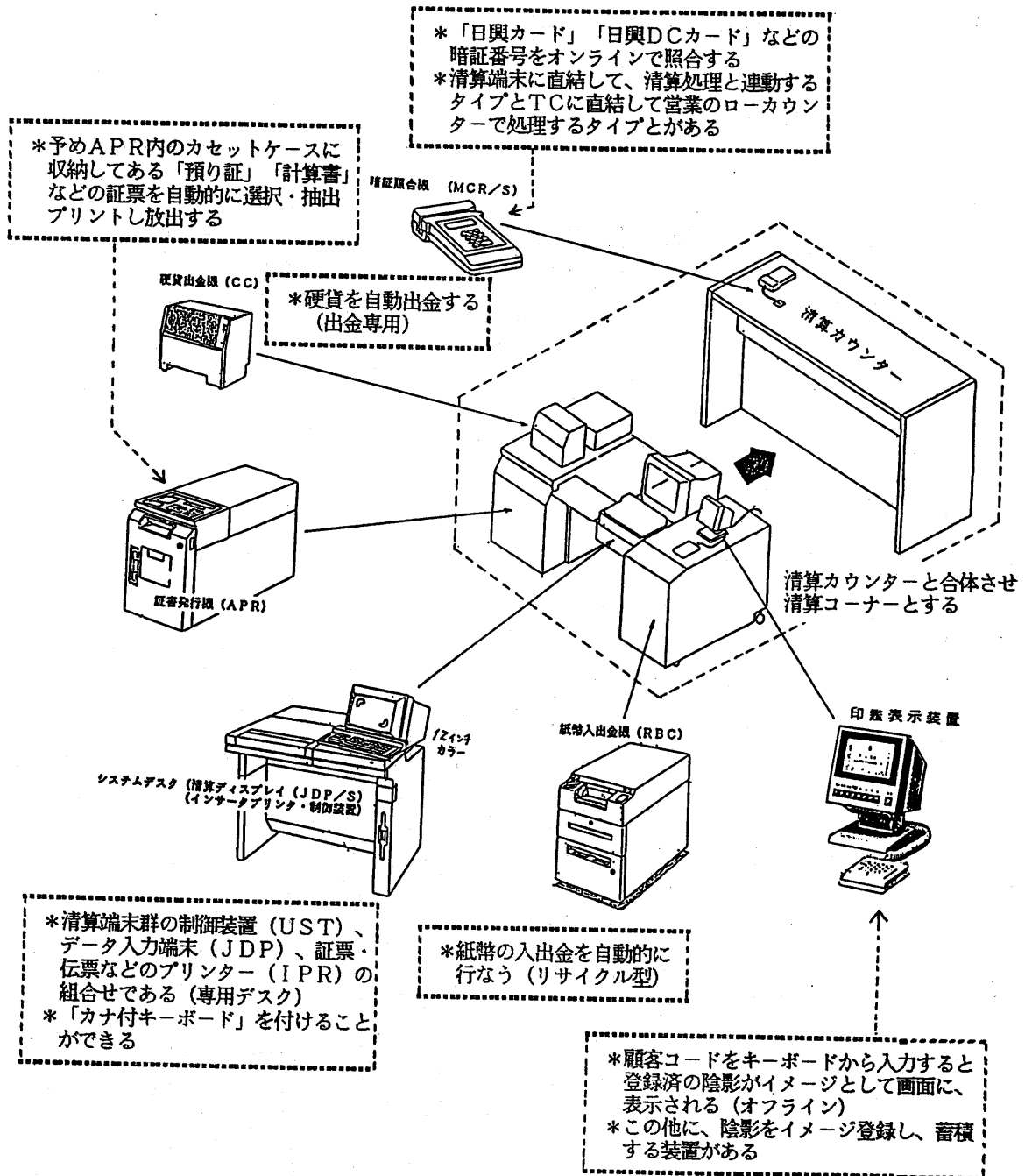
(UST/S) =
清算端末の制御装置



図示していないが
次の端末が接続可能
MCR/S =
カード暗証照合機
UST/S に接続



清算端末のイメージ図



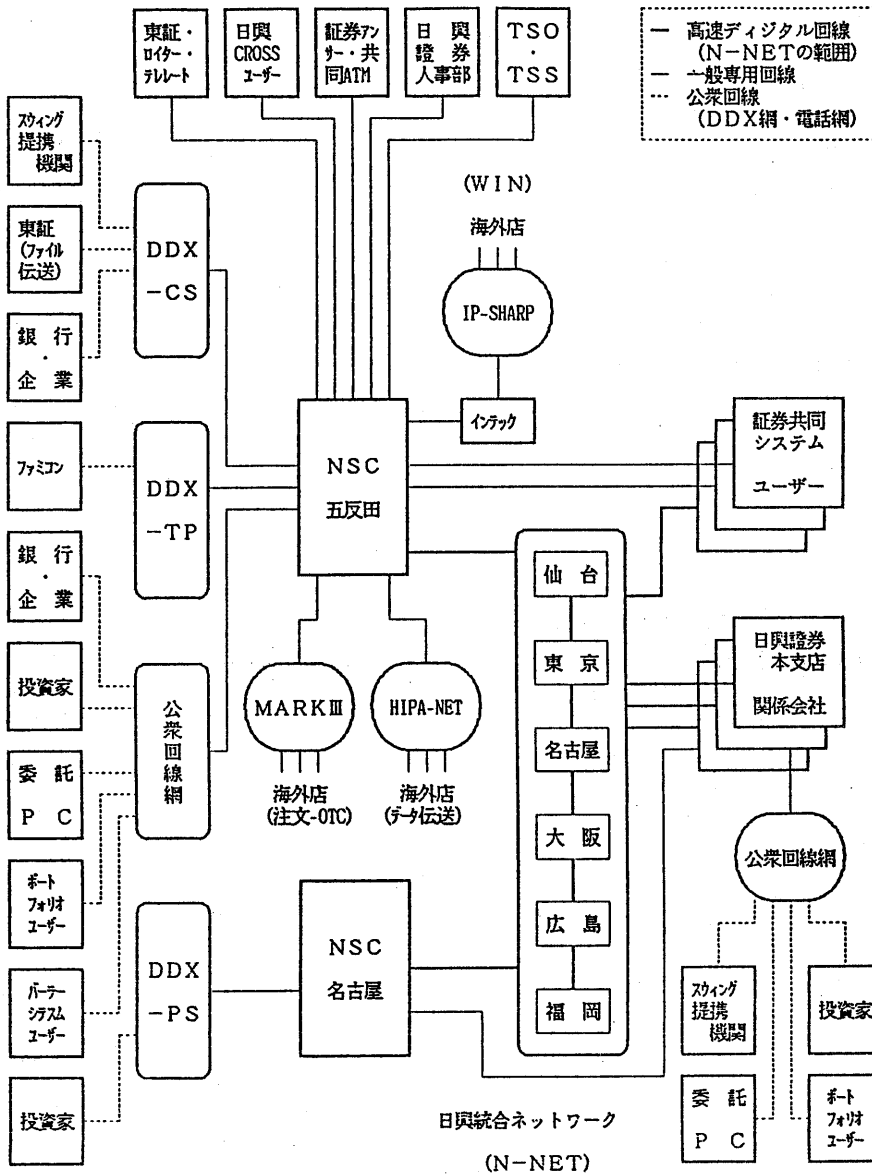
③ ネットワーク

-日興統合ネットワーク (N-NET) の全面採用

・データ通信、音声、FAXを1つの回線 (DDX/専用回線) で接続

-1 営業店複数回線 (複数TC) の採用

ネットワーク概念図



④. 主要機能 (主な改善点)

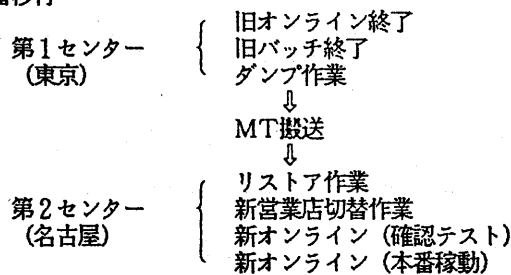
イ. 清算業務の大幅な機械化 (ワンマン化)	<ul style="list-style-type: none"> - 証票、計算書等のリアル作成 - 金銭出納の機械化と勘定処理の自動化 - 本格的な他店代行 - 郵送清算の改善 ~など
ロ. 事務処理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> - 預り証控のハンドリング作業廃止 - 注文処理の改善 (セールス自身が端末から入力) - 総合口座扱の拡大 (本人預り金口座記帳) ~など
ハ. 問合せサービスの拡大 -----レスペーパー化 即時化	<ul style="list-style-type: none"> - 問合せ目的に応じたきめ細かいサービス ・条件検索、問合せ期間、顧客別/セールス別 ~など
ニ. 顧客サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> - 漢字化の拡大 - 受渡、清算の待ち時間の短縮
ホ. 内部管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> - 異例取引のリアルシステムチェック - オペレーションカード (担当者の機械記録) - 管理者決裁の強化 (管理者決裁用カード) (機械チェックによる警告および処理後の記録) ~など

(4). 移行

①. 移行方式 (方針)

- 全店全業務一斉切替
- 第1センターから第2センターへのプログラムとデータの移動
- 端末切替
 - ・旧端末機の撤去
 - ・再使用する端末機の変更 (画面、ファンクションキー等は全面的に変更)
 - ・新端末機の設置

②. 本番移行



(5). 稼働後の評価

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> - 営業店事務員の削減 (コスト削減) - 伝票、帳表の統合化 (コスト削減) - 受渡・清算の待ち時間の大幅短縮 (顧客サービス向上) - 注文等のセールス事務の効率化 (事務から営業へシフト) - システムの安定運用 | <ul style="list-style-type: none"> - レスポンス - 本番時期 - 移行方法 |
|--|---|

3. 今後予測されるテーマ

(1). 背景

- 制度変更
- 新商品開発
- 同業他業界との関係
- 規制緩和

(2). 予想される開発テーマ

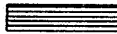
(予 想)

キャピタルゲイン課税	1989年	4月
消費税	1989年	4月
債券店頭オプション取引	1989年	4月
証券約定処理センター (信託銀行VAN)	1989年	4月
東証・債券売買システム化	1989年	4月
東証・約定通知システム直結 (回線接続)	1989年	4月
海外先物取引・先物オプション取引	1989年	4月
海外現物オプション取引	1989年	4月
大証・日経平均オプション取引	1989年	6月
T-BOND先物取引	1989年	6月
金融先物取引	1989年	6月
東証・TOPIXオプション取引	1989年	10月
名証・オプション取引	1989年	10月
東証・長期国債先物オプション取引	1989年	12月
大証・CB指数先物取引	1990年	
日銀・国債系ネット接続	1990年	4月
証券共同ATMの相互接続	1990年	10月
証券保管振替制度	1991年	10月
新証券コード採用	1992年	

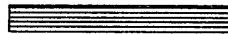
4. 新システム化計画の展開

6 1	6 2	6 3	6 4 / 1
-----	-----	-----	---------

(システムクリニック)



(システム化計画)



↓ 中間報告 ↓ 最終報告

(システム化計画の実行)



★フィナンシャルプランニング (バストプランナー)
(第1次本番)

★新営業店システム (本番)

★ファンドマネジメント
(TIMES)
(第1次予定)

- (1). システムクリニック - 環境変化に耐えうるシステムか否かの観点から、第三者による当社システムの客観的な評価・診断
- (2). システム化計画 - 中期経営計画に基づいた実行可能なシステム化のプラン作り
- (3). システム化計画の実行 - 計画の承認 ----- 63/4